

市民版



風かおる
柴田洋子(守山区)
中部美術文化協会
ニュース、情報は下記へ
社 会 部
231-7333 Fax 201-4331
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

紙面へのご意見は
読者センターへ
221-0800 Fax 221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

購読申し込み
0120-454010

学問守護・危険招徠・交通安全
名古屋天神

上野天満宮

名古屋市中区栄4-1-89
電話052-2541010 FAX052-2541011

●合格祈願 ●厄払い ●安産祈願 ●初宮詣り ●七五三詣り ●地鎮祭 ●竣工祭 ●各種ご祈祷 ●出張祭
各 年 中 受 付

相生山緑地市道工事再開へ 市長方針 一般車通行可能に

河村前市長は21日の市議会本会議で、前市長の河村たかし衆院議員の判断で2010年から工事が中断している相生山緑地(天白区)を横断する市道弥富相生山線について、工事の早期再開を目指す考えを明らかにした。環境保全を念頭に入れつつ、未着工区間に橋をかけ、これまで市が制限する方針を示してきた一般車両を通行できるようにする。



(福本英司)

希少なヒメボタルの生息地として知られる現地で、市道整備は1957年、周辺の交通渋滞緩和などを目的に都市計画決定されたが、推進派と反対派で意見が対立した。2009年の市長選で初当選した河村氏は環境保全のためとして工事の中断を指示。緊急車両や歩行者などに限って通行できる形で建設途中の道路をつなぐことが検討されたが、計画の89.2%のところが未着工のままとなっている。市によると、工事中断後、8億2千万円が周

工事が中断している相生山緑地を横断する市道弥富相生山線(名古屋市中区栄4-1-89)「わかつり」

辺の渋滞対策費などに充てられてきた。市は河村氏が市長だった昨年夏、有識者の意見を踏まえ、未着工の区間に道路を通すための三つの「折衷案」を市民らに提示し、検討してきた。

市議会本会議で河村市長は成田隆行議員(自民)の質問に対し、未着工の区間に橋をかける案を採用する考えを表明。環境負荷を抑えられるなどとしてできる限り早期の実現に努力する」と述べた。ヒメボタル

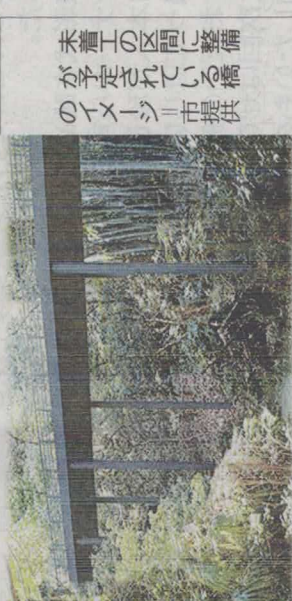
の繁殖期の5、6月ごろの夜間は一般車両の通行を制限することも検討していくとした。

「推進、反対双方に配慮」 未着工区間に橋かける折衷案

車に浮いていた市道弥富相生山線の整備が15年の時を経て大きく動き出した。河村市長は、工事の中断を決めた前市長の河村たかし衆院議員の方針を転換。推進派、反対派の双方に配慮したと説明した。ただ、反対住民には不満も根強く、丁寧な説明が求められている。

「10年以上活動してきた。ようやくここまでできた。」「相生山緑地内道路早期完成協議会」の杉藤清行代表(81)は21日の市議会本会議を傍聴し、感極まった様子で話した。「乗用車が通れないと意味がない。子どもが周辺で事故に遭う心配が軽減され、お年寄りも通院に便利になる」と期待を込めた。

河村氏が工事の中断を指示した2010年は、市内で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれ、希少なヒメボタルが生息する緑地を保護するため公園などを緑地に設ける



未着工の区間に整備が予定されている橋のイメージ。市提供

整備構想を打ち出していた河村氏。「自然環境も守る名古屋をつくりたかった。どえりやあ名古屋の名所をつくるチャンスだった」。21日、本紙の取材にこう語った。だが、04年の着工から中断までに充てられたのは事業費の8割に当たる29億円。地元の成田隆行議員(自民)は「いたずらに長い年月をかけて開通したのは道路下の小動物が通るトンネルだけだ」と皮肉った。

渋滞の解消などで開通を求める推進派住民は反発し、工事の再開を要望。環境破壊への懸念が拭えない反対住民は緑地の保全を訴え続けた。事態の収束に向け、市は昨夏、河村氏に確認した上で「折衷案」を作成。①そのまま道路を通す②斜面を一部削りトンネルを造る③橋を架け、その下に緑地を

個人質問(議案外質問)の主な通告内容 (敬称略、予定)

11月17日	本会議 (議案提出)
21、26日	本会議 (個人質問)
12月3日	常任委員会 (議案審査)
4日	本会議 (議案採決)

残す一の三つを住民側に示していた。バトンを託された河村市長が選択したのは③だった。

21日の市議会本会議で成田議員から折衷案の早期実現の意思を問われた河村市長は、副市長時代から関わってきた事業だと説明。「着手から今日に至るまで長い時間を要している。市民に、その効果を還元できていないことに責任を感じている」と述べ、「一般車を通すにあたってもできるだけ環境に影響を与えないよう配慮する」と強調した。

本会議後、報道陣の取材に「かなり納得していただけた」と自信を示した河村市長だが、「相生山緑地を考える市民の会」の福井清共同代表(76)は「公の場で意見交換できないまま判断され、非常に残念だ」と批判。市が工事の再開を一方的に判断したとして「双方の意見を聞くのが市政のやり方。軽率ではないか」と話した。



市道弥富相生山線整備の 主な経緯

1957年	都市計画決定
2004年3月	着工
09年4月	河村たかし前市長初当選
10年1月	河村氏の判断で工事中断
10年2月	道路建設の問題点等を考える学術検証委員会開催(～10月)
13年12月	市議会委員会が早期開通を求める請願採択(1回目)
14年12月	河村氏が道路事業を廃止し、公園として整備する方針を表明。緊急車両は通行可とする
18年12月	市が公園やキャンプ場を設ける整備構想を公表
19年12月	市議会委員会が早期開通を求める請願採択(2回目)
21年3月	学術検証懇談会開催
24年8.9月	市が三つの「折衷案」を示す
11月	河村市長が早期再開表明